

遠藤周作の生涯と文学

神学と文学の接点から見る

兼子盾夫 著

キリスト教作家・

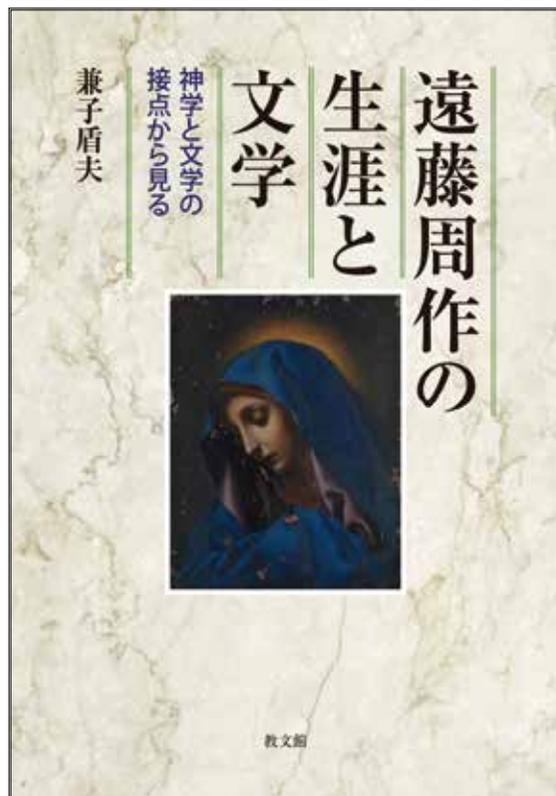
遠藤周作の真髄に迫るための必読書

「世界文学として評価される遠藤文学の普遍的な宗教性を、神学と文学の接点として象徴と暗喩の観点から作品の形而下と形而上の重層構造に着目する独自の分析方法によって解明した画期的な研究の集大成。」

——山根道公氏（ノートルダム清心女子大学教授）推薦！

『沈黙』『深い河』『おバカさん』などの作品をめぐる論文18本を収録。

著者紹介 兼子盾夫（かねこ・たてお） 慶応義塾大学大学院哲学研究科修士課程修了、上智大学神学部後期博士課程単位修得満期退学、ノートルダム清心女子大学から文学博士号を授与。著書に『遠藤周作の世界——シンボルとメタファー』（教文館、2007年）、『遠藤周作による象徴と隠喩と否定の道——対比文学の方法』（キリスト新聞社、2018年）。



A5判・上製・500頁・定価 3,960円（本体 3,600円+税）・ISBN 978-4-7642-9209-3 C3095